

Slovenia Monthly August 2020



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年9月7日

～8月の主なポイント～

- 内政：ピヴェツ年金者党党首の汚職疑惑
- 外政：パホル大統領、広島平和記念式典でビデオメッセージを発信
ポンペオ米 국무長官のスロベニア訪問
ブレッド戦略フォーラムの開催
- 経済：本年前半の輸出入、前年同期比で共に減少
- 安全：新型コロナウイルス感染症、接触確認アプリのダウンロード開始

政治

【内政】

●ピヴェツ年金者党党首の汚職疑惑 【10日、11日、25日】

10日、連立与党の一角を担う年金者党(DeSUS)の所属議員は、副首相兼農林食糧大臣を務める同党のピヴェツ党首の党首辞任を求めた。辞任要請の理由は、ピヴェツ党首が家族でワインメーカーを訪問した際に、同社のロゴが入ったTシャツを着用しつつ同社のプロモーションビデオに登場したことが倫理規程違反に問われているほか、同党首が大臣の業務としてイゾラ市に滞在した際に、イゾラ市当局が同党首の息子の宿泊費を負担した疑惑がメディアで報じられたため、DeSUS幹部会の委員長を務めるガンタル保健大臣も、所属議員による党首辞任の要請に同調した。25日、DeSUS幹部会は、賛成33票、反対19票で、ピヴェツ党首の不信任案を可決した。一方、ピヴェツ党首は、党首の不信任を行えるのは党大会のみであり、幹部会に党首解任を行う権限はないと主張しており、この点に関しての法的解釈が整理されるまでは、党首に留まることとなった。

【外政】

●パホル大統領、広島平和記念式典においてビデオメッセージを発信【6日】

6日、パホル大統領は、広島市の平和記念式典において、ビデオメッセージを発信した。パホル大統領は、「広島は戦争がもたらすあらゆる問題が体現されたものであり、広島と長崎はその暗い本性の象徴である。広島と長崎は、人類の歴史上最も暗い時代のひとつである第二次世界大戦の終わりを告げた。この大戦により、人類は敗北し、道徳的指針を失った。科学の進歩は必ずしも人類の進歩を意味するものではなく、破滅に導くこともあり得る。科学を平和のために利用するか、または戦争に使うかは、人間の政治的な決断である。なによりも、広島と長崎は、私たちに対して、平和的手段により紛争を解決する義務を、そして、人と人、国と国との関係の改善に取り組まなければならないことを絶えず思いださせてくれる」と述べた。続けて、同大統領は、「世界は密接に繋がっている。世界のひとつの地域に対する脅威は、軍拡競争であれパンデミックであれ、たちまち全世界に対する脅威となる。相互信頼と協力強化のために、我々は、さらに密に連携し、共に誠実に取り組んでいくことが重要である。本日の記念日は、対立と憎しみの世界がどこに導くかを想起させてくれる。敵を作るのは容易である

一方、友情を築くのは難しく、許しを与えることはさらに困難である。おそらく最も難しいことは、真に歴史から学ぶことかもしれない。しかし、歴史を変えることはできないが、未来を変えることはできる」と述べた。また、パホル大統領は「スロベニアを代表して、広島と長崎の記憶を守るためにたゆまぬ努力をする全ての人々に感謝の意を表したい。そして、広島と長崎の犠牲者及びその親族に深い敬意を表する」と述べ、ビデオメッセージを締めくくった。



(Photo: 大統領府、www.up-rs.si)

●ポンペオ米 국무長官のスロベニア訪問【13日】

13日、ポンペオ米 국무長官がスロベニアを訪問した。ロガル外相は、空港で同 국무長官を出迎え、空港内で短時間の会談を行った。両者は、パートナー及び同盟国であるスロベニアと米国の関係は戦略的に重要であり、両国の結びつきは共通の利益に基づき、あらゆる分野において一層強化される余地がある旨、及び、ポンペオ米 국무長官の訪問が、政治的対話、サイバーセキュリティ、経済及び科学技術における新たな協力の機会の確認に有益となる旨述べた。

空港での会談後、ポンペオ米 국무長官はブレッドに移動し、ヤンシャ首相と会談を行った。同会談後には、ロガル外相とポンペオ米 국무長官の間で、両国間の5Gセキュリティに関する共同宣言への署名が行われた。その後に行われたヤンシャ首相とポンペオ米 국무長官の共同記者会見において、ヤンシャ首相は、米国の新型コロナウイルス対策及びその成果に連帯の意を表明したほか、国際情勢に関しては、グローバルリーダーとして欧州・米国の強化された役割及びより緊密なパートナーシップが必要とされていると指摘し、その観点から、スロベニアは常に、そして特にEU議長国任期中において、EU・米国間のより緊密な協力を促進していくと述べた。また、同首相は、NATOは欧州・米国間関係の最も堅固な土台であると評価し、同盟内で負担を分担することが重要であるという点で一致したと述べたほか、両国の経済分野における協力については、米国はスロベニアにとって3番目に大きな投資国であり、貿易及び投資促進の数多くの機会がある旨及びスロベニアには今般署名された(5Gセキュリティに関する)宣言に関連した技術の開発に参

加できる優秀なIT企業が多数存在しており、新たなチャンスが生まれている旨述べ、これらの潜在性を活用できるように、サイバーセキュリティ分野においても両国の協力を深化していくと述べた。一方、ポンペオ米 국무長官は、今般署名された共同宣言が「信頼できない供給企業」を排除することにより、スロベニアを含め、複雑なネットワークシステム上で情報交換を行う全ての人々が恩恵を受けることになる」と述べ、現在の状況は、人々や他国の経済をコントロールしようとする中国共産党にとって不利な形勢となっていると述べた。また、同 국무長官は、本年2月に米国は三海域協力イニシアティブの枠組において、中欧地域のエネルギーインフラ整備のために10億米ドルを提供することを発表した旨紹介し、スロベニアも早急に同枠組みに対してコミットメントを示すことを呼びかけると述べた。

記者会見後、パホル大統領はポンペオ米 국무長官を招いての昼食会を主催した。昼食会前に、パホル大統領はポンペオ米 국무長官と短時間の会談を行い、安全保障、経済、科学、エネルギー、パートナーシップの強化及びグローバルな課題への対応に関する二国間の協力等について意見交換を行った。パホル大統領は、多国間協調主義の重要性を強調するとともに、一層結びつきが強まっている世界において、協働及び緊密な協力によってのみ様々な課題に対処することができる旨述べたほか、西バルカン諸国及び世界の各地域の安定及び発展のために、米国との協力強化に支持を表明した。



5Gセキュリティに関する共同宣言署名の様子

(Photo: Anže Malovrh/STA)

●ベラルーシ情勢に関するスロベニア側の反応【12日、13日】

ベラルーシ大統領選挙結果を巡る混乱に関し、12日、スロベニア外務省は、懸念と共に情勢を注視しており、抗議集会参加者への暴力を非難する旨の声明を発表した。ロガル外相は、EU議長国トリオをスロベニアと共に形成するドイツのマース外相及びポルトガ

ルのサントス・シルヴァ外相に書簡を送付し、本件に関するEUの結束した強い対応を呼びかけた。

また、13日、ヤンシャ首相は、スロベニアを訪問したポンペオ米 국무長官と共に行った共同記者会見において、現下のベラルーシにおける混乱の唯一の解決策として、国際選挙監視団の監視の下でのベラルーシ大統領の再選挙を呼びかけたほか、スロベニアはすでに再選挙が実施されるようベラルーシに圧力をかけるためのイニシアティブを取っていると述べた。

●ロガル外相、ジョージア外相と電話会談【24日】

ロガル外相は、ザルカリアニ・ジョージア外相と電話会談を行い、主に政治・経済分野における協力をはじめとした二国間関係を中心に意見交換を行った。また、ロガル外相は、スロベニアのEU議長国任期中の優先課題や準備状況について説明を行い、優先事項には東方パートナーシップが含まれている旨説明した。一方、ザルカリアニ外相は、本年10月に予定されている総選挙を含むジョージアの内政状況に関し説明した。その他、両者はベラルーシ情勢についても意見交換を行った。

●ブレッド戦略フォーラムの開催【31日】

31日、ブレッドにおいて第15回ブレッド戦略フォーラム(BSF)が開催された。本年は「新型コロナウイルス危機後の世界における機会と課題」とのテーマの下で開催され、新型コロナウイルスの影響により、通常の2日間から1日開催へと規模を縮小し、セッション数も減少したほか、全てのセッションがライブ配信された。

メインセッションであるリーダーズ・パネルは、ヤンシャ首相に加え、セルビアの大統領、チェコ、ブルガリア、ポーランド、ハンガリー、クロアチア、イタリアの首相(注:イタリア首相はビデオ参加)、IMF専務理事が参加して、「英国のEU離脱及び新型コロナウイルス後の欧州」とのテーマで議論が行われた。同パネルにおいて、ヤンシャ首相は、スロベニアが来年EU議長国を務める頃には、新型コロナウイルスがもたらす影響への対処を講じているだろうと述べつつ、英国のEU離脱は完了しており、欧州における新たなパワーバランスが構築されている時期であり、その中で中欧諸国は主要な役割を果たすことになるかと確信していると述べた。また、同首相は、欧州の長期的な主要課題がEU及びシェンゲン域の拡大である一方で、直近の課題は、人々の安全と健康を確保し経済が適切に機能することであると述べた。

また、外相セッションにおいては、スロベニア、クロアチア、スロバキア、チェコ、ポーランド、ハンガリーの外相及びボレルEU外務・安全保障政策上級代表が登壇したほか、ドイツよりミュンテフェリング外務担当国务大臣がビデオリンクで参加した。同セッションで

は、主に新型コロナウイルス対応に関する経験及び今後の展望について議論が交わされ、登壇者らは、コロナウイルス感染症への初期対応では、加盟国がそれぞれ独自の対策を講じたが、この危機によってEUより各国の権力のほうが強くなるということではない旨、一方、EUは今後効果的な危機管理に関する明確な概念を必要としている旨の見解で一致した。また、参加者より、加盟国がそれぞれの国の事情を理解することや、各国政府の支援策に関してEUによる条件を緩和することの重要性、情報を適切に管理し政治的プロパガンダを抑えることの必要性等について述べられた。



リーダーズ・パネルの様子

(www.flickr.com/photos/bledstrategicforum/)

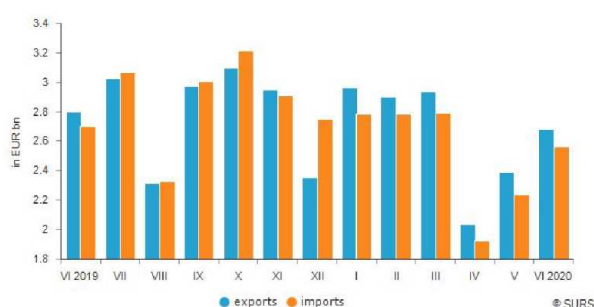
経済

【経済一般、指標・統計】

●本年前半の輸出入、共に減少【7日】

統計局は、本年前半のスロベニアの貿易額に関する暫定値を発表した。それによると、本年1月～6月の期間における輸出総額は159億610万ユーロ、輸入総額は150億7700万ユーロで、それぞれ前年同期比で5.6%、10.3%減となったことが明らかになった。本年1月～3月については、貿易額は前年を上回ったが、新型コロナウイルスの影響により特に4月及び5月に大幅な落ち込みが見られた。

Monthly values of exports and imports, Slovenia



(出典: Statistical Office)

●スロベニアの法定最低賃金と平均賃金の差の割合、EUで最小レベル【23日】

マクロ経済分析開発研究所(IMAD)が発表したデータによると、2019年のスロベニアにおける法定最低賃金は、スロベニアの平均賃金の50.6%にあたり、スロベニアはEU内において、最低賃金と平均賃金の差の割合が最も小さい国のひとつであることがわかった。スロベニアでは1995年に法定最低賃金の制度が導入され、2000年の法定最低賃金は平均賃金の40.3%、2010年は45.4%、2019年は50.6%と徐々に差が縮まっている。なお、EUではスロベニアの次に最低賃金と平均賃金の差が最も少なかったのはフランスで、最も差が大きかった国はギリシャであった。また、EUで最低賃金額が最も高かったのはルクセンブルクで、最も低かったのはブルガリア及びラトビアであった。

【企業、産業の動向】

●リュブリャナ市内のホテル、7月の客室稼働率は約30%【12日】

主都リュブリャナに所在する22のホテル及び2つのホステルのデータによると、本年7月の利用客宿泊件数は前年同月比で76%の大幅減となり、宿泊稼働率は約30%であったことが明らかになった。また、通常は外国人観光客の利用がほとんどであり、新型

コロナウイルス流行前のスロベニア人客の宿泊率は1%以下であったが、本年7月についてはスロベニア人の利用が増え、全体の約10%に達した。

●ファーウェイ社、スロベニア・米国間の5Gセキュリティに関する共同宣言署名に驚きを表明【14日】

14日、ファーウェイ社は記者会見を行い、ポンペオ米国務長官のスロベニア訪問の際に行われた5Gセキュリティに関する共同宣言の署名は驚きであり、自由市場に対する如何なる形態の差別及び規制は否定的影響を及ぼす旨指摘した。ファーウェイ社スロベニア代表は、同共同宣言はNATO及びEUにおける安全なネットワークの重要性を強調しているが、同社はサイバーセキュリティに係る全ての基準を順守しており、スロベニアに如何なる脅威も与えていない旨述べた。また、ファーウェイ社中欧・北欧部門のケジア副社長は、共同宣言書にファーウェイ社の名前は明記されていないが、ファーウェイ社がターゲットにされていることを感じており、懸念を有している旨及び共同宣言への署名はスロベニアにとってデジタル化及び技術発展の鈍化につながり、適切な競争がなくなれば、最先端ではない技術を使わざるを得なくなる旨述べ、ファーウェイ社の機器はEUが設定するサイバーセキュリティに関する基準をすべて満たしているにもかかわらず、スロベニアが米国と共同宣言署名に踏み切ったことにファーウェイ社は驚いている旨述べた。

●リュブリャナ空港利用者数、徐々に増加【14日】

リュブリャナ空港を管理運営するフラポート社によると、本年7月のリュブリャナ空港利用客数は20,992名で、4月の111名、5月の4,991名と比較すると、大幅に増加したことが明らかになった。一方で、前年のハイシーズンと比べると、利用客数は依然として少ない状態であるとのこと。フラポート社のスコビル社長は、新型コロナウイルスの流行がなければ、これまでにリュブリャナ空港は17の航空会社による22路線を開通し、アドリア航空の破綻により失われた交通量の95%を回復していたことであろうと述べた。



(Photo: Tinkara Zupan/STA)

●ゴレニェ社、非正規従業員を増員【18日】

中国企業ハイセンス社子会社のゴレニェ社は、スロベニア通信に対し、受注が好調であることを理由に、8月10日からすでに240名の非正規従業員を採用済みであり、9月1日までに更に350名を雇用予定であると述べた。同社は取材に対し、「季節製品の関係で、毎年この時期は受注が増加する傾向にあるが、本年は特に好調である」と述べ、本年末までの間、各月で昨年より30%以上の注文が入っており、2021年初頭に入っても、15~20%の受注増が見込まれているとのこと。

●ブリュッセル航空、リュブリャナ便再開を延期【24日】

ブリュッセル航空は、9月初旬に再開を予定していたリュブリャナ・ブリュッセル便の再開を10月27日まで延期することを決定した。ブリュッセル航空は、本来5月の再開を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、数度再開を延期しており、今回、更に延期することになった。8月24日現在、リュブリャナ空港への便を運航しているのは、ルフトハンザ、エア・フランス、トルコ航空、エア・セルビア、モンテネグロ航空、LOTポーランド航空、エーजीージェット、ウィズエア、トランサヴィアの9つの航空会社。

●コペル港の2020年前期の利益、前年同期比40%減【25日】

コペル港湾会社「Luka Koper」社は、2020年前期の純売上高は、前年同期比で11%減の1億700万ユーロ、純利益は40%減少して1500万ユーロとなった旨公表した。減少の主な要因は、新型コロナウイルス流行の影響による貿易の減速であり、同社の主要事業であるコンテナ部門は取扱量(TEU)で4%の減少に留まったが、ドライ貨物及びバルク貨物が26%、液体貨物が14%、自動車は18%、自動車は32%減少した。また、トン単位の総取扱量は1010万トンで、15%減少した。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

新型コロナウイルス関連情報

●8月末時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【31日】

8月31日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計2883名で、死者は計133名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している31日時点での地域別感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	832
ドレンスカ・ベラクライナ地方	248
サヴィンスカ地方	514
ポドラウスカ地方	233
ゴレンスカ地方	193
ポムルスカ地方	249
オバルノ・クラシュカ地方	85
ゴリシュカ地方	87
コロシュカ地方	118
プリモルスコ・ノトランスカ地方	94
ポサウスカ地方	47
ザサウスカ地方	145
その他調査中	38

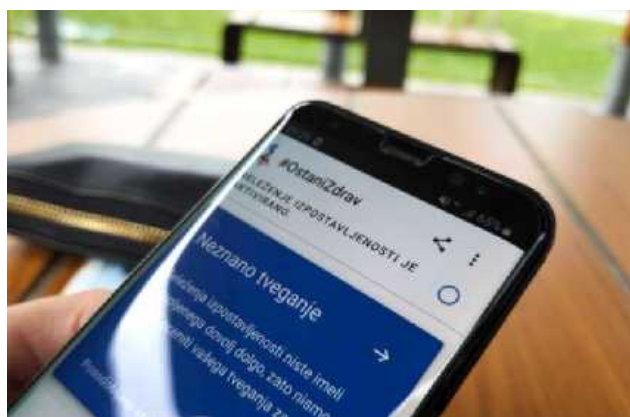
●スロベニアにおける治療薬投与の現状【5日】

スロベニア通信(STA)は、スロベニアにおける新型コロナウイルス患者に対する治療薬投与の現状を報じた。それによると、スロベニアにおける新型コロナウイルス患者は、症状に応じた治療を受けており、患者に対しては、レムデシビル、ファビピラビル(アビガン)、デキサメタゾンといった治療に効果があるとされる研究結果が出ている治療薬を使用している。リュブリャナ大学病院の感染症医であるマテヤ・ロガル医師によると、抗ウイルス薬であるレムデシビルは、集中治療の必要がある患者または酸素吸入が急務となった患者に投与される。また、症状が軽く、併発症状を持つ初期段階の患者に対しては、インフルエンザ治療薬として使用されてきたファビピラビル(アビガン)が投与される。酸素吸入を一定期間受けており、ファビピラビルを投与できる段階にない患者に対しては、ステロイド系抗炎症薬のデキサメタゾン投与が選択肢となる。ロガル医師は、「これらの治療薬は、様々な研究において、潜在的有効性が確認されており、比較的安全であるということが示されている」と述べた。マラリア予防にも使用される抗リウマチ薬のヒドロキシクロロキン、抗生物質であるアジスロマイシン及び抗HIV薬については、多くの研究で効果がないと証明されているため、スロベニアの医師は(新型コロナウイルス患者の治療に)これら薬品を使用していない。

また、スロベニア輸血センターは、今春に新型コロナウイルスに感染した患者の血漿を収集し、治療に使用する必要性が生じた場合に備え、これら血漿を保管している。現在のところ、リュブリャナ大学病院では新型コロナウイルスの治療に際し、血漿治療は行われていない。また、多くの技術的困難を伴う実験段階の治療法であるとの理由で、これまでのところ幹細胞治療も行われていない。

●接触確認アプリのダウンロード開始【17日】

17日、グーグルプレイにおいて、スロベニアの新型コロナウイルス接触確認アプリのダウンロードが開始された。翌18日の記者会見において、コリトニク公共行政大臣は、8月18日午後1時の段階ですでに4,982名のユーザーが同アプリをダウンロードしたと述べ、なるべく多くの国民が同アプリをダウンロードするよう呼びかけた。同アプリについては、公共行政省が設置したコールセンターがアプリのダウンロードに関する技術的サポートを行うほか、政府ホームページにアプリやダウンロードに関する全ての必要情報が掲載されたサブページが設けられた。同アプリは、ユーザーの身元を明かす可能性があるデータ等にアクセスしないため、追跡機能は有しておらず、新型コロナウイルスへの感染が判明した場合、感染者は、接触したアプリユーザーに対し、国立公衆衛生研究所から付与される10桁のコードを基に自主的に通知することができる。なお、アップルユーザーについては、今月末までに同アプリのダウンロードが可能となる見込みとなっている。



(Photo: Nik Kranjec/STA)

●入国に際する自主隔離要件の変更 【21日、28日、31日】

政府は、入国に際する自主隔離に関する要件を変更した。8月31日時点での詳細は以下のとおり。

(1) スロベニア政府が発表する往来自由国リスト(グリーンリスト)に掲載されている国の永住権及び一時滞在許可を有する者(外国人含む)で、かつ往来制限国(レッドリスト)掲載の国を通らずにEU及びシェン

ン域内からスロベニアに入国する者は、入国後の14日間の自主隔離義務が免除される。

(2) スロベニアに滞在許可を持たない外国人の内、新型コロナウイルスの陽性者または、明らかな感染の症状(咳、発熱、息切れなど)が見られる者は、上記(1)の往来自由国リストに掲載されている国の滞在許可を有していても入国は認められない。

(3) 往来制限国(レッドリスト)からスロベニアに入国する者は、スロベニア国民またはスロベニアに永住権及び一時滞在許可を有する外国人であっても、以下(5)の例外事項に合致しない場合には14日間の自主隔離が求められる。

(4) 上記(1)の往来自由国リスト(グリーンリスト)に掲載されていない国に居住する者は、以下(5)の例外事項に該当しない限り、スロベニア入国後、原則14日間の自主隔離義務がある。また、入国の際にスロベニア国内における自主隔離場所を提示できない場合は、入国が認められない。

(5) 自主隔離免除要項(例外事項)

政府は、往来自由国(グリーン)以外の国からスロベニアに入国する者に対する自主隔離免除の例外事項を変更した。自主隔離が免除となる例外事項は以下のとおり。なお、往来制限国(レッド)からの入国については、更に例外事項が狭まる。

また、以下の項目で★印が付いたものについては、国境通過に際して36時間以内にEU加盟国またはシェンゲン加盟国内またはスロベニア国立公衆衛生研究所が許可した機関・個人により発行された新型コロナウイルス陰性証明書の提示が必要となる。

- ・越境労働者(日毎)
- ・越境労働者(週毎)(★)
- ・商用のため訪問し、かつ商用目的であることを示す適切な証明書を提示できる者(★)
- ・交通分野の運転手で、必要な証明書を提示できる者
- ・運輸分野の運転手で、入国時点から12時間以内にスロベニアを出国する者
- ・トランジット目的で、入国時点から12時間以内にスロベニアを出国する者
- ・外交旅券所持者
- ・スロベニア政府が発行する証明書を有するサービス提供者で、自主隔離を行い同サービスが不履行となることで多大な社会経済的な損失が生じる可能性がある場合(★)
- ・保健、警察、消防、人道的支援物資輸送者等の公共サービス従事者(★)
- ・スロベニアを含む EU 及びシェンゲン加盟国内において医師による緊急の診察・手術があることを証名できる者。患者の健康状態により、必要と認められる場合は付き添いの者の同行も可能(★)

- ・学業、教育、科学研究活動のため入国することを証明できる者。学生の両親または運転手については入国時点から24時間以内にスロベニアを出国すること条件に入国が認められる
- ・近親の葬儀参加者で、入国時点から24時間以内にスロベニアを出国する者で、かつ葬儀の日程・時間に関する証明を提示できる者
- ・家庭の事情により、近親への訪問のため入国する者で、24時間以内にスロベニアを出国する者
- ・延期が困難な緊急を要する私的な用事または緊急の要するビジネス活動のため入国する必要性を証明できる者で、入国時点から可能な限り早急に、遅くとも48時間以内にスロベニアを出国する者
- ・国境付近の土地所有者または国境を跨いで土地を有する者で、かつ農業活動のために国境を越える者
- ・スロベニア軍、警察等の一員で、国外での任務を終えて帰国する者(★)
- ・スロベニア国内の宿泊施設予約時点で、スロベニア政府が定める往来自由国リスト(グリーンリスト)に国名が掲載されていたが、その後グリーンリストから同国名が削除された国から入国する者で、グリーンリスト掲載時に宿泊予約を行ったことを証明できる者(★)
- ・外国法執行機関員で、スロベニアにおいて犯罪人の引渡し等の業務を行う者で、業務執行後直ちに出国をする者
- ・各国際スポーツ連盟が主催する公式大会に参加するスポーツ選手、スポーツ選手のスタッフ、スポーツ代表団、審判等で、適切な証明書と新型コロナウイルスの陰性証明を提示できる者(★)
- ・医療従事者の付き添いにより救急車で輸送されてくる者
- ・スロベニア当局の公式招待等により入国する外国政府代表団メンバー

(6) 隣国に関する追加の自主隔離免除要項

上記(5)に加え、スロベニアの隣国(クロアチア、ハンガリー、イタリア、オーストリア)が往来制限国(レッドリスト)に掲載された場合には、対象となる隣国に行く場合に限り、以下の要項が自主隔離免除の要件に追加される(8月31日時点で、レッドリストに掲載されている隣国はクロアチアのみ)。

- ・スロベニア国籍者及びスロベニアに永住権を有する外国人で、かつ隣国に不動産または(宿泊が可能な)船舶を所有する者及び同人に同行する近親は、スロベニア出国後48時間以内に対象となる隣国から帰国すること及び適切な文書を提示することで、スロベニア入国後の自主隔離が免除される。
- ・スロベニア国籍者及びスロベニアに永住権を有する外国人で、かつ隣国で契約により不動産、(宿泊が可能な)船舶、またはオートキャンプで利用する土地

の使用権を有する者及び同人に同行する近親は、スロベニア出国後48時間以内に対象となる隣国から帰国すること及び適切な文書を提示することで、スロベニア入国後の自主隔離が免除される。

- ・隣国において医師の診察・手術があることを証明できる者で、かつスロベニア出国日と同じ日に帰国する者または診察・手術後すぐに帰国する者は、スロベニア入国後の自主隔離が免除される。

(7) 第三国で指示された自主隔離を自国で行う際の入国要件

第三国において、新型コロナウイルス感染者との接触が確認され、自主隔離を命じられた者が、第三国ではなく自国で自主隔離を希望する場合のスロベニア入国要件は以下のとおり。

- ・(スロベニア以外の)第三国で新型コロナウイルス感染者との接触が確認され、第三国において自主隔離を命じられた者が、スロベニア以外の別の第三国で自主隔離することを希望する場合、警察当局は、スロベニア当局の通知に基づき、別の第三国への入国要件を満たしており、かつスロベニア入国後6時間以内に出国すること及び(公共交通機関ではなく)自家用車により、最短距離で6時間以内に出国することを条件に、スロベニアの入国及び通過を許可する。

- ・(スロベニア以外の)第三国で新型コロナウイルス感染者との接触が確認され、第三国において自主隔離を命じられたスロベニア国籍保有者及びスロベニアに永住権を有する外国人が、スロベニアにおいて自主隔離することを希望する場合、警察当局は、スロベニア当局の通知に基づき、(公共交通機関ではなく)自家用車により、最短距離で自主隔離場所まで向かうことを条件に、スロベニアの入国を許可する。

軍事・治安情勢・危険情報

●レバノンにおける大規模爆発、スロベニア軍人員の無事を確認【5日】

レバノンの首都ベイルートにおける大規模爆発の発生に際し、トニン国防相は、レバノンに派遣されているスロベニア軍部隊の人員の無事を確認したと述べた。スロベニアは2006年より国連レバノン暫定隊(UNIFIL)に人員を派遣しており、現在3名のスロベニア軍人員がブルーライン沿いやレバノン南部の入域地点のパトロール等の任務にあたっている。なお、大規模爆発に関し、パホル大統領は、スロベニアを代表してアウン・レバノン大統領及び犠牲者の遺族に対するお見舞いのメッセージを発出した。



(Photo: dpa/STA)

●ダニ媒介疾患が急増【5日】

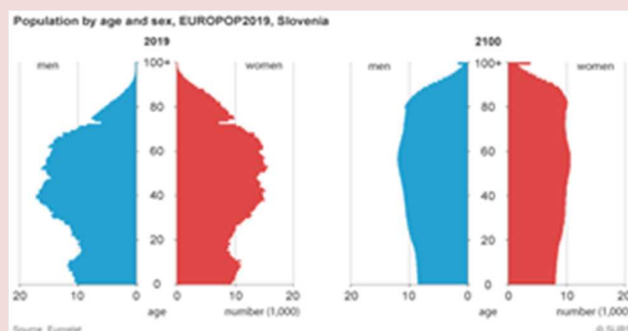
国立公衆衛生研究所の報告によると、本年はダニの活動が例年より活発になっており、これまでにライム病が4500件、ダニ脳炎については110件の感染報告が入っており、この数字は2019年全体の症例数をすでに上回っている。スロベニアはEU内でもこれら疾患の報告が多い国のひとつであり、ダニは暖かい季節、特に春先から晩秋にかけて活発になることから、国立公衆衛生研究所は、防ダニ剤の使用や可能な限り肌を覆う服を着て、意識的にダニの付着をチェックする等の予防策を呼びかけている。

スロベニアの人口動向

スロベニア統計局は、2019年のスロベニアの人口流出入に関する統計データを発表しました。同統計データによると、2019年の流出入に関する人口の増減は16,213人の増加となったことが明らかになりました。その内訳を見てみると、流入数は全体で31,319人であり、スロベニア国籍が3,759人、外国籍が27,560人で、外国籍が圧倒的に多くなっています。一方、流出数は全体数が15,106名で、スロベニア国籍が6,598人、外国籍が8,508人です。つまり、スロベニア全体における流出入の純増減はプラスですが、スロベニア国籍に限ってみると、2,839人減となっています。なお、スロベニア国籍の純減は20年連続、外国籍の純増は21年連続となります。



欧州統計局が発表した今後の人口予測に関するデータによると、スロベニアの人口は2024年頃までは増加し、人口約211万6千人となる旨予測されていますが、その後、人口は徐々に減少に転じ、2100年には約188万8千人まで減ることが予測されています。また、65歳以上の高齢者の割合は2019年時点では約20%ですが、2100年には人口の約3割に当たる31.3%となるとの予測値が出されており、社会の高齢化が進んでいく傾向が見てとれます。



人口の減少、そして高齢化はスロベニア社会の大きな課題となっており、今後、これら課題に対応した社会の構築が求められています。

(写真:統計局)

●スロベニアにおける児童の飲酒率【4日】

「学齢児童の健康に関わる行動調査(HBSC: Health Behaviour in School-aged Children)調査結果が発表された。同調査は4年毎に実施されるもので、これによると15歳の学生の71%、17歳の86%がお酒を飲んだ経験があることが明らかになった。また、15歳の27%、17歳の52%が、人生において少なくとも2度以上お酒を飲んで酔っ払ったことがあると回答した。国立公衆衛生研究所の職員によると、スロベニアにおける学齢児童のアルコール摂取率は減少傾向にあるが、依然としてHBSC調査を実施した各国の平均値を上回っていると述べ、児童のアルコール摂取を防ぐためには両親のアルコールに対する態度と子供とのコミュニケーションが極めて重要であると指摘した。

●国立化学研究所、ラウエ・ランジュバン研究所と中性子研究に関するパートナー協定に署名【6日】

国立化学研究所は、フランスのグルノーブルに所在し、中性子散乱研究で世界の最先端をいくラウエ・ランジュバン研究所(ILL)との間でパートナー協定を署名した。同協定の署名により、国立化学研究所は今後4年間、ILLのパートナー機関となり、中性子散乱に関する研究を行っていくほか、若手研究者の育成の機会にもつながることが期待されている。両機関の協力に関する資金はスロベニア研究庁(Slovenian Research Agency)が提供する。

●サッカーリーグの開幕、10日間延期【11日】

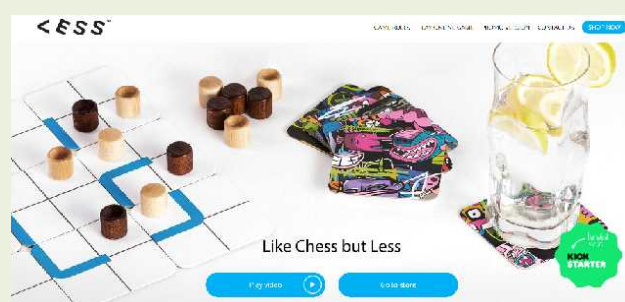
スロベニア・サッカー協会は、サッカーリーグの開幕を当初の予定から10日間延期し、8月22日を開幕日とすることを決定した。これは、ドムジャレ、アルミニイの2チームに続き、オリンピア・リュブリャナの選手からも新型コロナウイルス陽性が確認されたため。また、サッカー協会は、一時的な措置として全ての試合を無観客試合とすることも決定した。

発見！スロベニア

スロベニア発ボードゲーム 「LESS」

スロベニア発のボードゲーム「LESS」をご存じでしょうか？

「LESS」は、とてもコンパクトで、色々な場所に持ち運んで遊べるボードゲームです。2人または4人プレイ用の対戦型ゲームで、ルールは非常にシンプルながら、2.8兆以上のバリエーションがあると言われており、何度でも遊べる！と話題になっています。



ゲームの目標は、4つの持ちコマを相手のコーナー(角)に移動すること。盤面はゲームの開始時にランダムに設定できるため、組み合わせとして約2.8兆以上のフィールドパターンを設定できます。1プレイ5分程度とシンプルなのですが、将棋やチェスのように奥深いゲーム性もあります。2人プレイでも楽しいですが4人プレイだとさらにゲーム性が増して楽しめます。

このゲームは、ルールがシンプルなので、小さなお子さんから大人まで誰とでも一緒に楽しめて、頭の使い方も鍛えられる、脳トレ効果もあるゲームとしても紹介されています。コースターにインスピレーションを受けてデザインされたカードからなる盤面と、木製の駒はクルミとブナの木で作られており、デザインから生産まで全てスロベニアで行われています。

家族や友人同士で遊ぶのはもちろん、仕事の休憩時間のちょっとした息抜きに、そしてスロベニアのちょっと変わったお土産として、いかがでしょうか？

ルールの詳細等については、以下の紹介サイトをご覧ください。

【LESS紹介サイト】

<http://www.less-game.com>

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website.jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

- 政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>
- 政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)
- 外務省: <https://twitter.com/mzzrs>
(主にスロベニア語)
- 保健省: <https://twitter.com/minzdravje>
(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

- 国際交流基金海外巡回展「超絶技巧の日本」開催

10月7日(水)から10月28日(水)にかけて、スロベニア南東部のコチェウイエ市において、「超絶技巧の日本」展を開催いたします。ジオラマや食品サンプルといったユニークな作品をはじめ、日本独特のまさに超絶技巧を紹介する展示です。是非足をお運びください。

開催場所:コチェウイエ市地域博物館 Pokrajinski muzej Kočevje / Kočevje Regional Museum

住所: Prešernova ulica 11, 1330 Kočevje

* 来館の際にはコロナウイルス感染防止のためのマスク着用とともに、ソーシャルディスタンスの確保にご協力ください。

- 最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>